



六中だより

～自主・勤勉・共生～

No. 9

令和7年1月発行
港区立六本木中学校
校長 松島 智子

行事に取り組む六中生

校長 松島 智子

新年、明けましておめでとうございます。2025年の念頭にあたり、皆様が今年も健やかで穏やかに過ごせますようにお祈りいたします。今年もどうぞよろしくお祈りいたします。

昨年は元旦から大きな震災があり、不安な気持ちから始まった一年でしたが、復興に向けてはまだまだ時間がかかるようです。しかし、あきらめずに行えることから少しずつということでも歩みを止めずに、努力し続けている人たちがいることを決して忘れてはいけません。何かしらの形で私たちが応援できることがあれば、是非応援していきましょう。

さて、今年の干支は、「巳年（へび年）」、さらには周期の干支の「乙巳（きのとみ）」と言われる年です。始業式では、へび年にまつわるお話をしました。2025年は「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく年」です。乙（きのと）は、「木」の要素を持ち、草木がしなやかに伸びる様子や横へと広がっていく意味をもちます。巳（み・へび）は、神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルともされています。ということで、今年は今まで温めてきたものややりたかったことなどに改めてチャレンジすることに向いているかもしれません。生徒には「変化を恐れず、気持ちを前向きにして取り組もう！！」と話しました。3年生は受験を迎えます。緊張しない人なんていないし、不安を感じない人なんていません。しかし、一番の敵は自分の中にある甘さや弱さではないでしょうか。これまで努力してきたことや積み重ねてきたことが自信につながり強さとなって試験当日に慌てずに力が発揮できると思います。

さて、3学期に入り多くの行事が行われています。まずは11日（土）に行われた三大多行事の一つである「百人一首大会」。今年も全校そろって体育館で行いました。これまで2か月ほどの準備期間があって実施されるものです。国語の授業でも何度も対戦が行われ生徒のやる気も十分に伝わっていました。3年生にとっては最後の百人一首大会でしたが、緊張感に包まれ、学年関係なく戦う姿は圧巻でした。大会当日は一首詠まれるごとに歓声や落胆の音が体育館に響き渡っていました。



16日（木）には学年ごとに席書会が行われました。こちらもピンと張りつめた空気の中で、新年を迎え新たな気持ちを書に乘せていました。自身が納得のいくまで粘る人もいれば、少ない枚数に集中している人などそれぞれでしたが、お正月を代表するこのイベントは文化を継承する意味でもぜひ、続けていってほしい行事の一つです。



17日（金）は、本校では初めてとなる「学習発表会」を行いました。2年生代表生徒による「オーストラリア海外派遣研修報告」、日本語学級に在籍生徒による「中国のお正月についての発表」、そして3年生代表生徒による今年度初めて実施された「シンガポール修学旅行報告」の3つの報告を行いました。どの報告も要所をしっかりとまとめてわかり易い報告でした。そして何よりこの報告を聞いた生徒は次年度に向け、大変参考になったことと思います。人前で自分の言葉で発表するということが簡単なことではありません。聞いている人に興味をもってもらえるだろうか、聞きやすくわかり易い発表になっているだろうか、そして自分の気持ちを相手にしっかりと伝えることができるだろうか、話の内容や話し方（スピード、音量など）を考えなければいけません。できればいろいろな機会を設けて、生徒の皆さんにはこうした体験に是非挑戦して行ってほしいです。と同時に聞く側の人は話をしている人に対して、しっかり受け止めようとする姿勢を作してほしいと思います。今回の発表は誰のためでもない、今後のチャンスに期待する全校生徒の皆さんに向けた発表でした。この日のために準備そして発表してくれた生徒の皆さん、本当にご苦労様でした。



20日（月）は「オリンピック・パラリンピックレガシー体験授業」ということで、パラリンピックメダリストの葎原 滋男さんを講師にお迎えし、講演会とブラインドサッカー体験授業を行いました。講演のなかで葎原さんは①失敗したら修正し成功するまでやる、②あきらめずに挑戦する、③仲間のために自分は何ができるか考えることの3つが大切であるとおっしゃって

いました。ブラインドサッカーは一人がうまくても成り立たない種目です。どうしたらシュートが決められるか、そのためには自分は何をしたらよいかを常に考えて行動しなければなりません。このことは障がいがある無しに関わらず、私たちが生きていくうえで大切な教訓の一つです。一人ではできないことでもみんなで協力すれば可能になる、困っている人がいたら一緒に考えて気持ちを楽しんであげることだってできます。今、こうしている間もきっと誰かがSOSを出しているかもしれない、それを見て見ぬふりをして関係ないという身勝手な人にはなってほしくないと思います。一歩踏み出す勇気をもってください。誰もが自分らしく生きていける社会にしましょう。そのために、今この学校から作っていく必要があります。互いに足りないところは補い合うことそれが真の「共生」です。



1月31日（金）には本校で「パイロット校研究発表会」が行われます。2年間の研究の成果を他校の先生方に見ていただきます。日々、皆さんが取り組み頑張っている様子が、授業または「六中タイム」から多くの方に伝わってくれることを期待しています。3学期も残すところ、あと2か月になりました。この時期は反省と次のステップに向け気持ちを作っていく時期です。「自分は今、何をやるべきか」、「人に迷惑をかけてはいないか」、「誰かの役に立っているか」など自問自答して、次の行動を考えていく人になってください。